

市立大洲病院

院内の本当の完全電子化を目指して
データを統合的に管理できるシステムを導入



佐藤武司副院長とスタッフの皆さん

導入経緯

医療情報の電子化を完璧にするために

当院の医療情報電子化の取り組みは2014年2月にオーダリングシステムの導入から始まり、完全電子化を2015年12月に完了させました。しかしながら、完全電子化を実施するにあたり、「その診療行為が、いつ、どこで、どのように実施されたかが容易に判別できない」という新たな課題が見つかりました。

また完全電子化にも関わらず、どうしても紙文書が発生するという問題もありました。そのため、それらのデータを統合的に管理できるシステムを導入する必要がありました。

新しいシステムを導入するにあたって、放射線 PACS の更新や生理検査システムとの統合も課題の一つでありましたので、それらの課題を克服できる柔軟かつ汎用性の高いシステムの導入は大きな課題であり、検討しておりました。

将来的に考えて拡張性および発展性が見込めるシステムであること、さらに部署間で異なる様々な要望に対して迅速かつ柔軟に対応できるシステムであることを最大のポイントとして検討した結果、アストロステージ製品の選定に至りました。

導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- RIS システム NazcaRIS
- 診療情報統合システム STELLAR
- ドキュメント作成&管理システム STELLARReport
- 画像キャプチャシステム ARKGate

導入前の課題

- 完全電子化により発生した課題の対処
- 放射線 PACS の更新
- 新システムと生理検査システムの統合

導入後の効果

- カスタマイズ性の高いシステムで電子化が完全に
- STELLAR の導入で他システムの情報を統合管理

市立大洲病院：システム導入時期 / Dec 2015



医療は患者様と医療者の信頼関係の上に成り立つものであり、患者様の主体的な参加により医療を行う必要があると考えています。
当院は「地域医療の確保という公共の福祉の増進」及び「常に企業の経済性の発揮」が使命とされており、職員一人一人が日々研鑽に努め、将来にわたり患者様に良質で安全安心な医療を提供することにより、患者様に選ばれ、地域に求められる病院となるよう全力を傾注してまいります。

所在地：愛媛県大洲市西大洲甲 570 番地
病床数：151 床
診療科：内科・外科・整形外科・泌尿器科・麻酔科・リハビリテーション科・眼科
耳鼻咽喉科・皮膚科・放射線科

今後の期待・要望

現状においても非常に機能的かつ柔軟性に富んだシステムだと思っておりますが、さらに効率的かつ利便性のあるシステムの提供をして頂きたいです。訪問看護や往診時に双方向で情報共有が可能なシステムも実現化して頂きたいと考えております。

今後の方針

現在 STELLAR に未接続の機器についても順次連携を進めていき、拡張性と柔軟性を備えた STELLAR の活用を図ってまいります。また、地域連携ネットワークを医師会圏域にて導入することも検討しており、電子化された医療情報の活用が当院の今後の課題であると考えております。

システム構成図

